

## 熊本城の利活用について

**高島** お城で働く全ての方々に時代衣装を着ていただきます。現在、2~3人の方がそれなりの格好をしていらっしゃいますが、中途半端で統一感もなく、ストーリーの欠片も感じられない。入場券の販売、入場口、売店、本丸御殿から警備の方に至るまで、入場する皆さんが城内に一歩足を踏み入れた瞬間から**タイムスリップした感覚を味わっていただく**ために時代衣装をまottoお迎えしてみたいかがでしょう。

**高島** 本丸御膳は順調に提供されていますが、豪華な料理故にお値段も3,000円と少し高めの設定になっています。お年を召した方や食の細い方からもう少し量を…との声も耳にします。品数とお値段を抑えたりリーズナブルなガラシャ御膳、肥後六花御膳や馬肉を使った手軽に食べられる本丸丼などをメニューに加えてはいかがでしょうか。また現在本丸御膳の夜の提供はお盆の時期を含め極めて短期間に限られています。**宿泊客対策**を考えると、お昼同様年間を通じて夜の提供にも取り組むべきと思いますがいかがでしょう。

## だれもが安心して暮らせる 政令指定都市について

**高島** 政令市に移行すると、本庁をトップに区役所、そして地域密着の3つのタイプの出張所と三段構造の組織体制になります。本庁が人間で云うところの脳の動きを司るところと考えると、区役所は熱い、寒い、痛いと五感を働かせる大事なポジションです。

この組織体制が市民に定着するには一定期間を要するものと思われる。説明会を開催されるようですが、正確な情報が多くの**市民へ浸透するの不安を隠せません**。区役所に行かなければならないことは何か、出張所で解決できることは何か、これらを市民に対して具体的に分かりやすく明示することが肝心です。市民への周知の手法について考えをお聞かせ下さい。

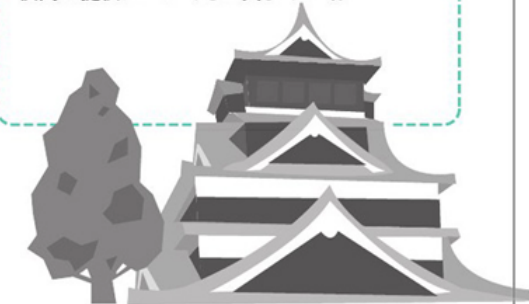
## 7月 れいすい杯ミニバレーボール大会 10/24(日)開催決定!

詳しくはホームページにてお知らせします!

**A** 今後お城に従事する職員の服装については熊本城に相応しいように工夫を凝らし、おもてなし向上に努めたい。



**A** 利用されるお客様の意見を参考に事業者と協議を行い魅力的な料理を提供し、夜間の提供についても工夫していく。



**A** 市政だより、テレビCMなどでの広報活動を行い、7月からは説明会を開催していく。また新たに市のできる事務の内容や、住民サービスの窓口体制の詳細について整理がついた後は、校区単位での説明会も検討したい。

※その他、3期目の決意、観光・コンベンション機能の強化、子育て・障がいのある子どもたち、交通基盤の整備について質問しました。詳しくは私のホームページの「議事録」を検索してご覧ください。動画で項目ごとに楽しめます。

# 「決意を質す!」

去る6月1日、第2回定例会で私自身6回目の一般質問をしました。今回は政令市移行を機に策定された「政令市ビジョン」の重点戦略と主な取り組みについて提案を含めてその決意を質しました。



## 西南戦争のクローズアップについて

**高島** 植木町と合併した新熊本市は西南戦争をより一層クローズアップして取り上げていくべきです。川尻・二本木の薩軍の本陣跡地、花岡山にある薩軍の砲座の跡、田原坂の激戦、南洲翁に「お城に負けた」といわしめた熊本城、旅の一日を締めくくる最後は名湯の誉れ高い植木温泉でのご宿泊。これらをパッケージに「西南戦争ツアー」と称してエージェントに働きかけてみてはいかがでしょうか。

**A** 田原坂資料館の改築も計画されており、整備中の「桜の馬場観光交流施設」においても西南戦争を紹介していく。今後、植木温泉観光旅館組合とも連携を図り、商品化に向けて旅行エージェントに働きかけていく。



## 文化・芸術の担い手の育成について

**高島** 熊本市には19の公民館で開設している自主講座があります。そこには日舞、茶道、生け花はじめ和文化に卓越した講師の先生方がきら星の如くいらっしゃいます。講師の先生の中には**文化の伝承に危機感を感じ、早くから心の教育**を目的に独自に和文化の大切さをお住まいの近くの学校で教えている方もいらっしゃいます。自主講座の講師の先生方に子どもの文化・芸術活動の充実、次代を担う人材を育成する指導をお願いしてはいかがでしょうか。

**A** 今後は地域にあり、多彩な講師を有する公民館の自主講座リスト、文化芸術等の人材リストを活用し、より幅広く講師を求め、活動分野を広げることで子どもたちの伝統文化活動の充実に努める。



## 資源循環型社会の構築について

**高島** 紙おむつの年間販売量は大人用で24万トン、子供用で27万トンとなっており、年々増加傾向にあります。現在、大人用、子供用問わず、家庭から出される分と老人介護施設から排出される大半は燃やすごみとして収集され焼却処理をしています。この使用済みの紙おむつは多量の水分を含んでいるため、生ごみ同様焼却する際に燃焼効率を妨げています。

先日最先端の紙おむつ処理機を調査しました。投入口からポリ袋入りのまま投入すると、自動的に袋とおむつの構造を破砕します。次に排泄物を発酵させ、吸水材の水分を乾燥させて病原菌を高温で滅菌し、冷却した上で取り出した再生燃料は、1kgあたり5,000キロカロリーの熱量を有しています。この新エネルギーは環境工場の助燃剤、ペレットストーブや入浴施設の燃料、さらにはハウス栽培の熱源など、多くの用途で実際に使用されています。

高齢化社会に相応しい環境施策であり、廃棄物のエネルギーを資源として活用し、処理施設の延命化にも寄与する、まさに**一石二鳥、三鳥の価値のある事業**と思います。紙おむつの再生処理に対する考えと今後の行政の取り組みについて見解をお聞かせ下さい。

**A** 資源循環型社会の構築を目指すにあたり、紙おむつの処理を含めたごみ減量・リサイクルに向けた取り組みは不可欠である。医療施設や老人介護施設などに対し、紙おむつのリサイクルを含め、ごみの減量化に取り組んでいただくように働きかけたい。